

道徳通信

愛西市立八開中学校
第1学年
令和3年7月14日
No. 10

「人は、どんなことを大事にして働いているのだろう」

初代：藤本治一郎

～道徳「聖地甲子園の土守」を通して考えました～

「いがんでる（ゆがんでいる）。やり直し。」

物資供出の掛け声のもと、甲子園は内野の鉄傘をはぎ取られた。グラウンドは芋畑と化し、米軍の焼夷弾が落ちた。平和が来て、藤本は懸命にグラウンドをよみがえらせる。季節に合わせて土の配合を変えた。球児を思い、白球が映える鏡のようなグラウンドを造り出す。

二代目：辻啓之介

「バウンドが変わって選手の顔に当たった
らどないする。」

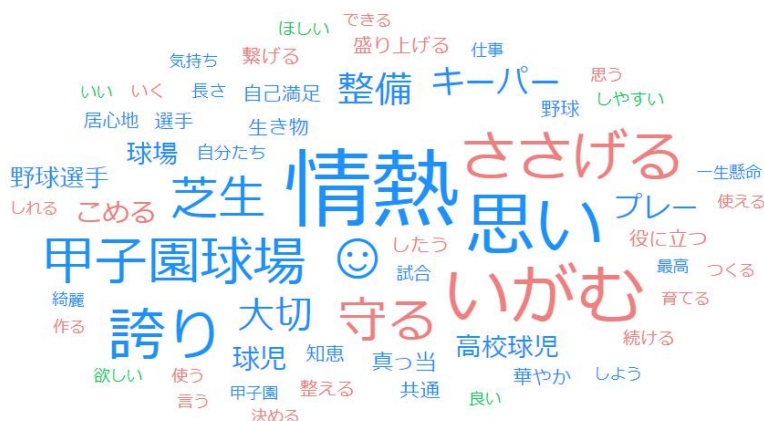
夏だけでなく春もみずみずしい芝の上でプレーしてほしいと冬芝を育て始めた。芝の長さにもこだわった。五ミリ、十五ミリ・・・最適な長さを見つけるまでに5年以上の月日がかかった。

三代目：金沢健児

「甲子園のグラウンドがいいのは藤本さん

と辻さんの貯金があるから。将来、貯金を増やして次の代に渡したい。」

三人の仕事の流儀、思いに注目し、人はどんなことを大事にして働いているのか、自分の将来を見据えて考え、話し合いました。



●● ●●くん

自分の仕事に責任をもって、相手によかったと言われるようにしていく。藤本さんと辻さんの話を聞いて、自分の仕事に責任をもつことが大切だとわかりました。

●● ●●くん

人はいろいろな思いをもって仕事をしていることがわかった。同じ仕事に関しては同じ思いをもって仕事をやっている人もいることがわかった。やるならやるで、中途半端にやらないことが大事だと思った。

●● ●●さん

仕事には、たくさんの種類があって、当たり前にあるものを大事につくっていて、その人たちはその仕事を人に気づかれなくても、生きがいだと思ってやっているんだと知った。

●● ●●さん

一つのことに一生懸命になるのはすごいと思った。芝生にも土にも情熱を注いでいたのに、選手のことまで考えていてすごいと思った。みんなのために働くことが大事だと思った。

●● ●●くん

一人として死なせたり、けがさせたりしてはいけないと思う。人から人へと自分の仕事を託していけるといいと感じた。

●● ●●さん

自分のためではなく、みんなのことを考えて働いていると思いました。だから将来、自分もみんなのことを考えて働きたいと思いました。目標、みんなのことを考えて働く！

●● ●●さん

上の人から、やれと言われてたからやるのではなく、自分で考えて、みんなのためにやろうと思えるようにしたい。

●● ●●さん

仕事は、いやいやするより楽しんだ方がいいと思った。その仕事にやりがいを感じ、情熱をもって働こうと思った。

●● ●●さん

働くというのは、大変だけど、誰かが生きやすくなるから頑張れるのかなと思いました。まだ、なりたい職業はないけれど、なった職業に責任をもち働きたいと思いました。